

クリニック開設13年半、3000名余の発達障害児童の診断・療育に携わって感じること。(1-5 平谷美智夫):

医療の側にも問題があることは承知の上で
教育サイドに期待(お願い)したいこと。

1: 読字障害(発達性ディスレクシア)・計算障害は稀な疾患ではない。

2: 自閉症スペクトラム障害の児童の大半は書字が苦手であると感じる。実用的なスピードで書いているか否か、担任に知っていただきたい。宿題や連絡帳を他の児童と同じくらいの速さでやれないと遊ぶ時間がなくなってしまう。

発達障害児童の診断・療育に携わって感じること。(2-5)

3: DD の診断基準について 2SD ではなく、1SD (少なくとも 1.5SD) で考えていただきたい。1SD (15.9%) でも、30 名の中で下位の 5 名に入る。医学では病気は 2SD を採用することが多いが教育では 1SD でも困難を感じていると推測する。ボーダーラインの子どもも対象に・・・が LD の基本的な視点

4: 書字障害の診断基準が早く欲しい

字を書くのが嫌で勉強嫌い→学校嫌いになっている子どもが少なくないと感じる

5: クリニックを受診する DD 児の大半が ADHD・ASD を併存 (DD 単独児は少数。教育現場の実態を正確に反映しているかどうかは検討が必要であるが)

発達障害児童の診断・療育に携わって感じること。(3-5)

6: 中学進学時期に英語について、中学側でちゃんと見てもらえるかいつも不安に思う。
食物アレルギーに卵除去食の診断書があるように英語(読み書き)除去という診断書を書きたくない

文字の使用(読み・書き)が困難な DD に読み書き中心の英語教育は 100 害あって一利なし

7: 関係者の理解は深まってきてはいるが、その歩みは遅々としており、子どもや保護者のニーズには応えているとはいえない。

いまだにディスレクシア(DD)を知らない教員が存在していることが信じられない。特に中学の英語の教師に DD の知識がないのが不思議

発達障害児童の診断・療育に携わって感じること。(4-5)

8: 多くの DD 児は、LD トラウマを持つ

どうせ僕なんか! 死んでしまいたい

お母ちゃん なんて僕なんか産んだや?

→早期発見・早期介入

① 平仮名読みの指導は就学前に行うべし。

② 支援機器導入を早い時期に実施

③ 高校入試・センター試験で実施されている特別な配慮は在学中(小・中・高)に実施しないと意味がない

9: 読字障害(Reading Disorders)を“読み書き障害”と翻訳(?)したために、診断・病態理解に混乱をもたらしている。